

顔面神経麻痺？顔面神経痛？顔面けいれん？

外来で患者さんに問診をしていると、以前顔面神経痛になったことがありますとおっしゃる方がおられます。あれっ、と思ってよく話を聞いてみると、顔面に痛みがあったので顔面神経痛と思い込んでおられたり、痛みはなくて、麻痺であったり、けいれんであったのに病名を顔面神経痛と思い込んでおられたりすることもあります。

顔面神経麻痺は、文字どおり脳神経の一つである顔面神経に麻痺がおこり、顔面の筋肉に力が入らなくなる疾患です。たいていの場合、片側でおこり、突然に発症し、飲水時に口角から水がもれる、閉眼しにくい、眼が痛いなどの症状で気付かれる方が多いようです。また、一部は耳小骨の一つであるアブミ骨に付着した筋肉にも分布しているために、麻痺することにより、音が響いて聞こえるという症状も出ることがあります。さらに、涙腺や唾液腺、味覚にも関係しているので、眼の乾燥感とか、味覚低下もあります。さらに、時には、隣接する脳神経の症状であるめまいとか難聴を伴うこともあります。

何れにしても、顔面神経には痛覚はないので痛みがあるなら、三叉神経や舌咽神経の関与が考えられます。また、顔面けいれんは頭蓋内で脳血管が神経を圧迫して生じるもので麻痺ではありません。

顔面神経麻痺の原因については、全体の70%ぐらいは原因不明の特発性顔面神経麻痺、いわゆるベル麻痺（単純ヘルペスウイルスの関与がいわれているがまだはっきりしていない）といわれているものですが、残り30%には、帯状ヘルペスウイルスによるもの、中耳炎、外傷によるものや、脳腫瘍が見つかることもあります。また、糖尿病や高血圧、血液疾患が背景にあることもあります。

顔面神経麻痺の治療は主に内服、点滴など保存的治療を行いますが、原疾患の治療や神経減荷術などの手術的治療が効を奏することもあります。全体的には80%以上が治癒する疾患ですが、発症早期に耳鼻咽喉科医に受診されるようにおすすめします。

平成10年11月

田中 久哉